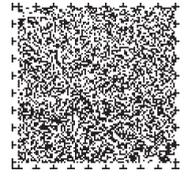


発達障害情報センター、この1年 <http://www.rehab.go.jp/ddis>



研究所 発達障害情報センター 深津 玲子

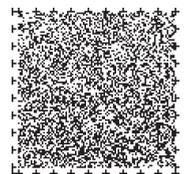
発達障害情報センターは平成20年に厚生労働省内に開設され、同年10月1日当センターに移管されました。その後22年1月にウェブサイトの全面リニューアルを実行し、また全く新しい情報共有システムを構築しました。これは国リハニュース317号（平成22年3月号）に詳しく報告をしたので、今回はリニューアル後の1年間の活動について紹介します。

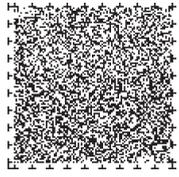
情報センターウェブサイト（<http://www.rehab.go.jp/ddis>）をご覧いただいたことはあるでしょうか？サイトは7つのカテゴリーに分類されたコンテンツから成り立っています。「発達障害に気づく」「こんなとき、どうする？」「発達障害を理解する」では発達障害に関する正しい知識を持っていただくための内容です。「発達障害者を支える、さまざまな制度・施策」「日本の取り組み・世界の動き」では発達障害に関する制度の情報を提供しています。「相談窓口の情報」では発達障害者支援の拠点機関となる全国の発達障害者支援センターを紹介しています。「発達障害に関する資料」では公的機関で作成されたガイドブック・マニュアルおよび国の助成で行われた研究（厚生労働科学研究など）の成果物等の情報を掲載しています。当サイトでは原則週2回（月・木）に記事更新を行っています。全面リニューアルを実行した昨年1月20日以降本年1月19日までの1年間で記事更新回数は108件、更新箇所は図1に示したとおりです。外部リンクとなるイベント情報、資料の紹介が多くなっていますが、発達障害者施策の動向に沿って、近々「発達障害者を支える、さまざまな制度・施策」「日本の取り組み・世界の動き」のブラッシュアップを予定しています。また知識に関するコンテンツである「発達障害に気づく」「こんなとき、どうする？」「発達障害を理解する」では、作成記事を当事者団体代表および有識者よりなる検討会において文章チェックをしていただいています。特定の障害者に不利、差別となる表現がな

いように、という観点からです。したがって情報センターで記事を作成してから実際の掲載までには何回もの書き直しが必要となり、時間がかかります。最近最終了承を得た原稿が準備できましたので、今後順次掲載予定です。またアンケートでイラストを入れてほしい、との要望が多くあったことを受け、準備を進めています。来年度早々に「こんなとき、どうする？」にイラストが挿入される予定です。

では発達障害情報センターサイトにはどのくらいのアクセスがあるのでしょうか？図2に昨年1年間のアクセス数を示しました。ウェブサイトのデイリーアクセスをみると、平日は平均して約800のアクセスがあり、休日は少なくなります。その影響でしょうか、お盆休みがある8月はアクセスが少なくなっています。では情報センターウェブサイトで人気のある（参照数の多い）コンテンツはなんでしょう？図3にコンテンツ別ページ参照数を示しました。発達障害の知識に関する情報センターオリジナルコンテンツ（「発達障害に気づく」「こんなとき、どうする？」「発達障害を理解する」）は最も参照が多く、トータルで全参照数の半分以上を超えます。次いで「相談窓口の情報」です。これは全国の発達障害者支援センターの問合せ先変更や新規開所などに最も早く確実に対応している、との評価を受けています。今後もサイトユーザーのニーズに答える情報記事の拡充に努めたいと思います。

情報センターサイトのご紹介をしてきましたが、発達障害情報センターにとってウェブサイト運営は業務のごく一部に過ぎません。現在発達障害者支援センターの中核機関としての機能を果たすべく、厚生労働省、情報センター、支援センターの情報共有体制を強化したところです。今年度中に3者を会員とする会員サイトを開設し、全国支援センターの体制・実績のみならず独自の取り組み等についても収集



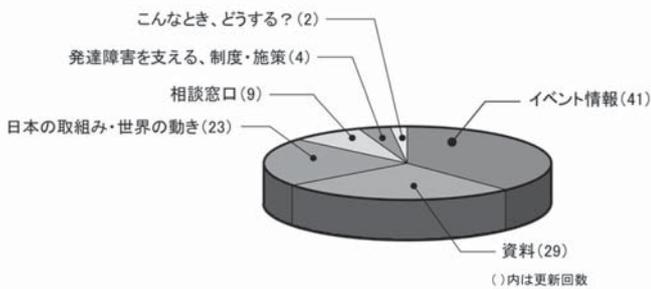


し、データベース化して会員が利用できるよう構築中です。冒頭で述べた新しく構築した情報システムを活用し、web上で簡便に情報収集が可能となると考えています。また発達障害者支援に関連する最新の研究について情報収集し、わかりやすい形で国民に情報提供することを目的に、研究班会議、報告会に参加し、研究者とのコミュニ

ケーションに努めています。その発展として、現在学芸大学加瀬研究室と共同し、相談支援ポイント集のブラッシュアップを行っています。また発達障害教育情報センターと定期的に会議を持ち、発達障害に関する情報を補完的に提供できるよう検討を続けています。また国外の発達障害者支援制度の調査、研究を有識者と共同して進めています。今後ウェブサイト以外の方法でも発達障害に関する普及・啓発を行っていくため、現在検討を行っています。このように発達障害情報センターの仕事は多岐にわたり、どれも新しい試みです。発達障害に関する情報収集・提供、調査研究、普及・啓発、支援センターとの連携による関連機関のネットワーク化等を通じ、発達障害に関する基本施策の推進の一助となれば、とスタッフ一同がんばっています。情報センターはプロジェクト参加型の部署です。みなさまのご興味、ご関心をいただき、協働の分野をご提案いただければ、いつでも情報センターは扉を開いています。

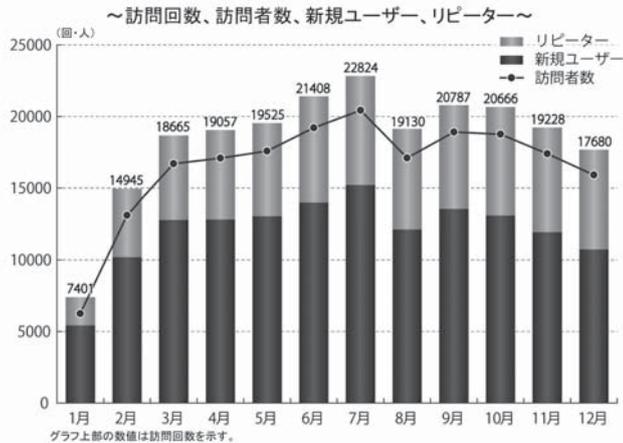
発達障害情報センターサイト更新状況
(平成22年1月20日～平成23年1月19日)

図1



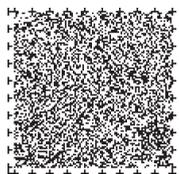
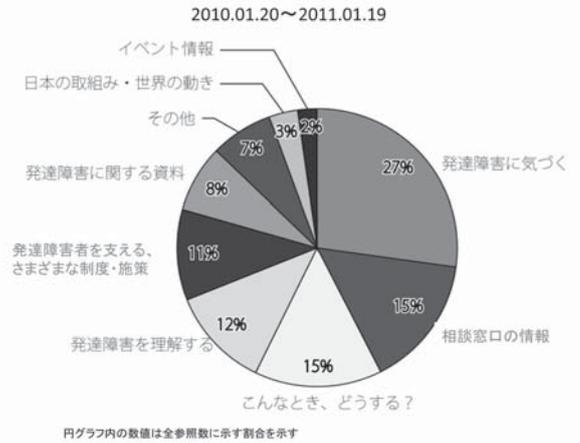
月別比較

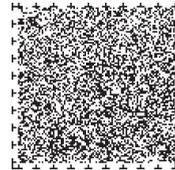
図2



コンテンツ別ページ参照数

図3





「イシガキダイ」

元更生訓練所理療指導室長 川政 勲

イシガキダイはイシダイ科の魚で、本州中部以南（日本海側は山口県以南）、南シナ海に分布している。体側の紋様が石垣の様なのでこの名前が着きました。イシダイに近い仲間であるが、姿はイシダイよりやや丸く、背びれの数もイシダイより少し多い。その故か泳ぐ時もイシダイよりも敏捷である。

歯は上下とも接合して一枚の歯となり、噛む力が強く、アワビ、サザエなどの殻も噛み砕く。幼魚期には好奇心の強い性質で、イシダイを釣ろうとしている餌をコツコツと突っついて食べてしまう。

体側の石垣模様は成長に伴って細くなる。老成した雄ではこの斑紋が消えて、吻部が白くなり、俗

にクチジロと呼ばれる。

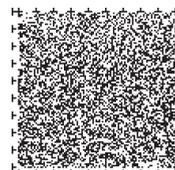
イシガキダイもイシダイも利口な魚の部類に入るので、水族館では芸を仕込んで見せてくれる。

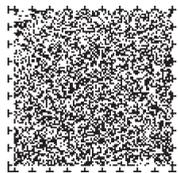
イシガキダイはイシダイと模様が違うだけで、魚全体としては大変良く似ているが、商品価値としてはイシダイに軍配が上がる。

魚拓を作る時も、イシダイをイシガキダイに作ったり、逆にイシガキダイでイシダイを作ったりすることがあります。

作品の魚はイシダイとイシガキダイですが、別な魚です。

梅開花少し差のある県境 いさお





平成22年度 リハビリテーション実施状況（1月報告）

1 自立支援局利用者状況

(1) 昼間実施サービス状況（1日平均）

（単位：人）

課 程		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	平均
自立訓練 （機能訓練）	H.22	25.1	23.8	26.1	25.3	24.4	24.9	27.3	29.5	32.7	33.6			27.2
	H.21	14.9	17.2	20.9	25.0	24.2	27.4	27.0	26.5	28.0	28.0	26.2	30.9	24.7
自立訓練 （生活訓練）	H.22	10.8	10.8	10.8	10.9	11.0	10.7	11.9	10.0	10.8	11.5			10.9
	H.21	9.6	9.9	9.1	7.8	6.3	9.8	9.8	9.8	9.4	9.7	10.0	11.0	9.3
就労移行支援	H.22	65.5	77.4	62.5	64.9	69.4	65.7	54.8	53.1	59.9	50.1			62.3
	H.21	55.3	62.7	56.5	59.8	66.9	70.3	76.8	59.0	66.8	56.8	61.0	42.6	61.0
就労移行支援 （養成施設）	H.22	87.8	95.0	95.0	94.0	93.0	92.7	92.0	89.9	88.0	88.0			91.6
	H.21	72.7	77.7	76.8	75.5	75.0	75.0	75.0	75.0	75.0	75.0	75.0	59.6	73.8
合 計	H.22	189.2	207.0	194.4	195.1	199.0	194.0	186.0	182.5	191.4	183.2			192.0
	H.21	152.5	143.6	171.0	176.0	172.3	165.1	188.6	154.1	162.2	153.4	155.8	151.0	168.8

(2) 施設入所支援サービス状況（1日平均）

		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	平均
施設入所支援	H.22	202.6 (66.4)	215.1 (67.9)	203.8 (68.3)	202.3 (67.2)	209.0 (68.9)	202.6 (68.5)	199.4 (70.6)	187.6 (61.4)	191.3 (54.2)	183.5 (52.9)			199.7 (64.8)
	H.21	185.3 (69.0)	193.7 (65.5)	187.3 (64.2)	189.6 (62.5)	187.8 (58.4)	198.9 (59.9)	200.6 (59.7)	189.7 (66.8)	194.5 (64.9)	193.0 (72.4)	192.0 (68.2)	184.3 (60.4)	191.4 (64.2)

※（ ）は、職業リハビリテーションセンターを利用し、かつ施設入所支援サービスのみを利用している者の内数である。

(3) 独自事業（1日平均）

		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	平均
自動車訓練	H.22	115(48)	166(101)	161(89)	145(83)	120(47)	129(53)	137(72)	147(88)	116(56)	142(65)			138(70)
再理療教育	H.22	0.0	0.9	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0			0.9
臨床研修コース	H.22	1.3	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	2.7	2.0	2.0	2.0			2.5

※（ ）は、自動車訓練のみ利用している者の数である。

(4) 利用者数計（1日平均）

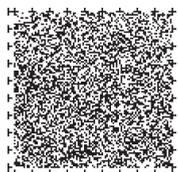
		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	平均
支援サービス	H.22	255.6	274.9	262.7	262.3	268.0	262.4	256.5	243.9	245.6	236.1			256.8
独自事業	H.22	6.0	13.9	12.9	12.3	8.7	9.3	10.8	11.8	8.6	9.5			10.4
利用者数総計	H.22	261.7	288.9	275.5	274.7	276.6	271.6	267.3	255.7	254.3	245.6			267.2

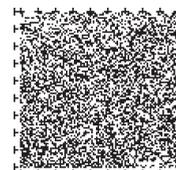
※1「支援サービス」は、「昼間実施サービス」の利用者及び「職業リハビリテーションセンターを利用し、かつ施設入所支援サービスのみを利用している者」の合計数である。

※2「独自事業」は、自動車訓練のみの利用者及び再理療教育、臨床研修コース利用者の合計数である。

2 病院入院患者の状況（1日平均）

区 分		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	平均
総 数	H.22	115.6	117.1	109.9	95.7	91.8	87.0	85.7	82.3	94.5	68.8			91.9
	H.21	121.0	107.4	102.5	102.2	107.7	105.3	95.6	88.3	81.6	89.5	100.0	108.3	100.8
一 般	H.22	114.5	116.7	109.0	94.8	90.9	86.4	85.0	82.3	93.9	67.9			91.2
	H.21	119.4	104.8	100.5	102.1	107.0	105.3	94.7	88.3	81.6	89.4	98.7	108.3	100.0
利 用 者	H.22	1.1	0.5	0.8	0.9	0.9	0.6	0.7	0.0	0.6	0.8			0.7
	H.21	1.6	2.6	2.0	0.0	0.7	0.1	0.8	0.0	0.0	0.1	1.3	0.0	0.8





3 病院外来患者の状況（1日平均）

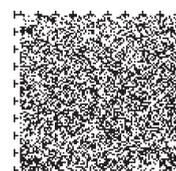
区 分		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	平均
総 数	H.22	142.3	154.1	146.3	151.1	140.8	148.4	144.3	158.4	148.5	199.2			153.4
	H.21	154.9	162.1	151.0	152.6	147.9	151.5	146.6	145.2	151.5	143.6	135.3	135.7	148.2
一 般	H.22	129.7	142.1	132.5	136.8	128.8	135.7	131.1	145.6	135.5	185.3			140.3
	H.21	143.0	147.6	138.8	139.7	136.1	137.5	134.0	132.4	139.0	123.2	117.5	113.8	133.6
利 用 者	H.22	12.6	12.0	13.7	14.4	12.0	12.6	13.2	12.8	13.0	13.9			13.1
	H.21	11.8	14.3	12.2	12.9	11.7	14.0	12.6	12.7	12.5	20.3	17.7	21.9	14.6

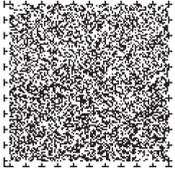
4 見学者の状況（実人員）

区 分		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	平均
医 療	国内	84	206	277	76	433	388	158	120	0	114			185.6
	海外	32	54	43	1	0	45	2	15	5	4			20.1
教 育	国内	12	96	2	105	37	13	64	143	34	0			50.6
	海外	0	0	22	1	26	0	1	5	1	18			7.4
福 祉	国内	106	68	88	112	53	125	104	40	54	30			78.0
	海外	5	18	33	13	0	19	0	18	38	0			14.4
職 業	国内	17	0	14	9	2	15	1	0	0	0			5.8
	海外	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0			0.1
そ の 他	国内	50	42	59	14	21	122	26	21	92	64			51.1
	海外	2	2	35	0	1	5	4	3	5	1			5.8
うち障害者 (再 掲)	国内	9	21	13	34	4	6	36	11	2	1			13.7
	海外	0	1	20	0	0	0	0	5	7	1			3.4
平成22年度計	国内	269	412	440	316	546	663	353	324	180	208			371.1
	海外	39	74	134	15	27	69	7	41	49	23			47.8
	計	308	486	574	331	573	732	360	365	229	231			418.9
平成21年度合計		332	448	599	387	476	631	355	436	208	371	405	314	413.5

5 学院生の在籍状況（月末現在）

学 科	学 年	人 数
言 語 聴 覚 学 科	1 年	31
	2 年	28
	小 計	59
義 肢 装 具 学 科	1 年	9
	2 年	10
	3 年	8
	小 計	27
視 覚 障 害 学 科	1 年	10
	2 年	4
	小 計	14
手 話 通 訳 学 科	1 年	14
	2 年	10
	小 計	24
リハビリテーション体育学科	1 年	2
	2 年	3
	小 計	5
合 計		129





センターのロゴ

センターのロゴは、国際障害者年を記念し、入所者・職員から募集した作品の中から選定されたものです。

このロゴは、

- 1 リハビリテーションセンターを包む、リハビリに対する強い意欲・意思・たゆまざる努力、そして友情と信頼、
- 2 リハビリテーションセンターを出発点として、未来にまた広く社会各方面に向かって伸びようとする入所者・職員の姿、
- 3 手話の指、点字を読む指、職業、職能、理療に励む力強い5本の手指

をイメージ化したものです。

また、NRCDはNATIONAL REHABILITATION CENTER FOR PERSONS WITH DISABILITIESの頭文字です。

制作者 住田律夫（昭和56年制定）



上のシンボルマークは、WHO（世界保健機関）のマークです。

WHO（World Health Organization）とは、国連の仕事のうち、保健衛生の分野を受け持つ専門機関であり、その目的は、全人類の健康を守るために、世界の国々が力を合わせて努力しようとするものです。

国立障害者リハビリテーションセンターは、WHO指定研究協力センターの指定を受け、国際協力を行っています。

「国リハニュース」編集事務局

国立障害者リハビリテーションセンター管理部企画課

〒359-8555 埼玉県所沢市並木4-1

TEL 04-2995-3100 FAX 04-2995-3661

ホームページアドレス <http://www.rehab.go.jp/>

（国リハニュースはホームページに掲載されています）

※本誌へのご意見、ご要望等がございましたら、上記編集事務局宛

FAX又は、Eメール（kikakuka@rehab.go.jp）をお寄せ下さい。

